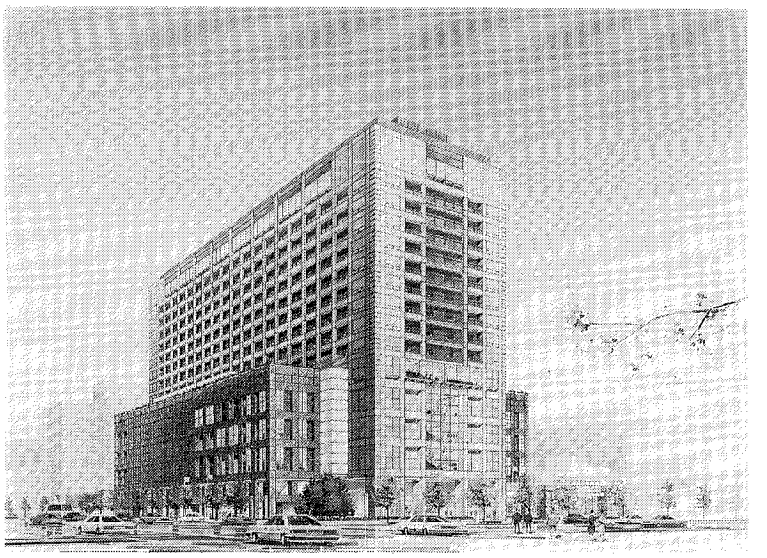
No. 47
1992年　冬季号

診断京都

（題字　橋口会長筆）

このパンフは（社）中小企業診断協会京都支部が発行しております

京都経済新地図



京都ホテル

「京都ホテル」が有名になった。ホテルとしてでなく，高さをめぐってだ。公共に敷地の１部を提供すれば高さ制限を緩めるという“総合設計制度”によって60㍍のビルを計画したことが話題の発端になった。京都仏教会を中心に非難され，設計変更を巡って紛糾した。この騒ぎが契機になって，市民の間に京都の景観への関心が高まったことが，最大の収穫といえよう。　（完成予想図）

目　次

〈京都経済新地図〉　京都ホテル……（1）
〈巻頭言〉　黒崎徳之助支部長……（2）
〈講　演〉　新京都産業論　清水武彦京都産業会館専務理事……（3）～（5）
〈インタビュー〉　古川敏一　京都府中小企業団体中央会会長……（6）～（7）
〈報　告〉　近畿ブロック会議……（8）
　　ＩＮＳプラザ見学記……（9）
〈京都支部だより〉……(10)
〈会員のページ〉……(11)
〈企業のページ〉……(12)

中小企業診断士マーク

☆**社団法人中小企業診断協会京都支部**は，中小企業診断士で作っている団体で，京都府内の各分野で活躍している約100名の診断士が加入しています。

☆**中小企業診断士**は，中小企業のマネジメント・コンサルタントとして通産大臣が認定し登録した唯一の国家資格です。診断士が行う企業診断は，経営活動の実態評価や，長期的視野に立った戦略計画の立案・指導を行うなどのほか，行政機関などと提携して地域産業振興にも尽力しています。

巻頭言

新年のお願い
一そうの結束とご活躍を

支部長　黒　崎　徳之助

平成４年の新春を迎えられ，心からお慶び申上げます。

昨年１月火を吹いた湾岸戦争も早期に終結し，世界は冷戦の終焉を見ると共に，経済のグローバル化が進み，ゆとりと豊かさの21世紀に向け新たな秩序作りに入りました。

史上最長の景気上昇を続けた平成景気も，バブルの崩壊であやしくなり，色々な国内外の課題をかかえながら宮沢新内閣の誕生となりました。

こうした動きのなか，診断協会京都支部では平成３年度も以下各事業を大過なく消化しつゝあり，会員の結束と会の活性化を一段と進展出来ましたことを報告すると共に，役員・会員諸氏の御協力の賜と厚く御礼申し上げます。

京都府の本年度３企業に対する活性化指導事業も大方の進行を見，京都市から受託の「中小製造業の生産性と人件費」並びに「中小商業の販売生産性と人件費」の調査分析も完了し，地域産業界の活用を待つ段階にあります。

特に９月20日，７年振りに京都が当番となって開催した平成３年度近畿ブロック会議は，本部と近畿７支部35名の参加を得て詳細な各事業報告の外，各支部のかかえる問題点から診断制度の将来方向と要望など突込んだ意見交換が出来，次年度兵庫県支部に引き継ぎ出来ました。

また毎月木曜日定例の経営診断研究会は早や80回を重ね（支部だより参照）参加会員の輪番による自由なテーマ提供はますます佳境に入り，診断協会でなければ出来ない有益な勉強が続けられています。そして秋の見学研修会ではＮＴＴ情報文化センターで，ハイテクの数々をじかに見ることが出来，非常に役に立ちました。

来る平成４年度中小企業施策は　①人手不足時代の時間短縮　②魅力ある商店街やショッピングセンター作り　③伝統産業などへのハイテク導入による再生　④物流コスト上昇の解決など，課題が私達診断士の活躍を待っています。更に①管理者研修（36時間）の実行や，②診断士養生講座開講への取組みなどにも挑戦したく，そのためにも③未加入診断士の協会加入をお願いするなどと共に，④会員諸氏が一そう健康で各方面に活躍されることを祈念し，新年のごあいさつとします。

講演

「新京都産業論」

京都産業会館専務理事 清 水 武 彦氏

この講演は1991年5月28日開いた中小企業診断協会京都支部の研修会で実施したものを，編集者がまとめたものである。

略歴 1930年東京都生れ，61歳。京都大学文学部を卒業して京都市役所に入り，公害対策室長，清掃局長，職員局長，経済局長。日本シャーロックホームズクラブ会員。

全国の中の京都

まず最初に，全国の中の京都の姿を経済指標から眺めてみると「人口は実年期」といえる。夜間人口は減少，昼間人口は停滞，社会増減も減ってきている。人口が増えていることは必ずしも良いとはいえないが，減少は都市としての老齢化の評価につながる。「経済力は1％」は各種統計から導き出せる。人口は全国比1.18％，工業製品出荷額1.01％といった調子だ。産業構造は，機械，酒・たばこ，電気機械，輸送機械，出版・印刷の各業種でバランスよく構成されており，平衡感覚があるといえる。

関西産業活性化センターが91年3月発表した都市のアメニティ度評価報告書によると，人口10万人以上の207都市の中で，京都のアメニティ度は東京都区部に次いで全国2番目だった。この調査は街全体の快適度を9つの大項目に分け，58の指標を使って客観的な分析を試みたもので，京都は全項目で得点が高く，この面でもバランスがとれている。

外から見た京都

次にこの京都を私の知人，友人の目を通して外から眺めてみよう。京都に20年以上在住している米国人のコピーライター，ハル・ゴールト氏の作品に「GMよ，京都へお越しやす」というのがある。米国の自動車業界が環境悪化を嘆く前に京都に来て，京都が明治維新ショックをいかに克服したかを勉強せよという意味だ。京都の観光も明治以前の史跡に限らず，日本の近代化に果たした役割が再評価されてよい。

東京ディズニーランドの総合プロデューサーである堀真一郎氏は過日の講演会で「京都は完全なテーマパークだ」と指摘していた。ディズニーランド自体がわが国におけるテーマパーク第1号とされているが，彼にいわせると「京都を模範とし，追いつき，追い越そうと努力してきた」と。それだけに京都らしさを失ってはならないというのが彼の主張だった。

パソコン・ソフトの会社を経営している西和彦氏も「京都らしさは徹底的に保存すべきだ」という。その代り「四条河原町の様な所は思い切って高層化すればよい」ともいう。彼にいわすと「京都はニューヨークに似ている」そうだ。ニューヨークでは最近，シティリゾートを求めて白人の金持ち階層が都心部へ戻ってきているようで，京都も都心部を人が集まる場所にしてほしいということだ。

1985年，私がまだ現役の経済局長であった時，ドイツ・ケルン市との姉妹都市25周年を記念して向うで京都ウィークを開いた。そしたら現地の新聞が「GEISHA が来た」と書いた。何のことかとよく考えてみると，着物姿の娘さんの姿を「芸者」と表現したようだ。ドイツを始めヨーロッパ人の日本への関心は強いが，まだ遠い世界である。京都が活動していく余地があると思った。

戦略産業としてのサービス産業

日本経済の産業構造はソフト化，サービス化へ転換しつつあるといわれ，海外からも要望されている。この担い手であるサービス産業は申すまでもなく第3次産業に属しており，年々その比重は増しているが，行政の施策は工業や商業に比べ不十分だった。基礎になる統計さえ整備されているとはいい難く，近年やっと調査され始めた状態だ。京都の場合も全くといっていいほど手つかずの状態だったので，経済局にいた1985年から86年にかけて調査した結果，おぼろげながら実態が分ってきた。

サービス業は本質的に基幹産業にはなりえないが，地域経済の活性化のためには戦略的役割を担う必要がある。現代は国際化，情報化，高齢化の時代とされるが，共通して対応

できるのはサービス業である。サービス業が活性化することによって製造業を元気づけ，第1次産業をも動かせる。そういう意味で，サービス業は戦略産業ともいえよう。

京都のサービス業の特徴を見てみよう。従業者数で最も多いのは教育。3万3千人と全体の構成比は20.6%，全国シェア1.7%。次いで医療業が19.2%，全国比1.8%。3番目が洗たく・理容・浴場業，4番目が旅館・その他の宿泊所。宗教は7番目だが，全国シェアは3.5%と高い。

収入額で見ると，映画を除く娯楽業，パチンコ屋がだんトツ。旅館，リース，宗教，情報サービス業が比較的よい。

つまり，全国的に見て京都のサービス業には教育，医療のほか，旅館，娯楽，自動車といった観光に関連した業種に特化しているといえる。半面，京都に少ないものは対事業所サービス業である。

文化関連産業

京都の活性化には京都大学の山田浩一教授がいう文化関連産業が必要である。その対象は大学であり，本山であり，家元である。ただこの3つは所得が把握できず，経済的にとらえにくいのが特徴だ。アングラマネーとはいわないまでも大量のカネが金融機関に預けられており，京都の経済をうるおしている。経済施策の立案にはこの文化関連産業の収入を明らかにする必要があると考え，まず寺院の経済を調べようと思っていたところ，京都市長と寺が大ゲンカして（笑い）実現できなかった。

京都のサービス業はいま発生したわけでない。17世紀後半には京都で家元制度が確立し，いまでいう芸ごとブームが全国に慢延した。このため出版産業が京都で発達した。18世紀後半は平安建都千年。本山参りが盛んに行れ，旅行代理業に当たる講が全国で組織され，京都の旅館，料理業を振興した。ガイドブックの発行によって京都の情報産業が盛んになった。

このころになると各藩主が経済運営に力を入れるようになり，京都を手本にした商工業の振興を図った。京都は今でいうNIESに追い上げられる日本の立場に立たされたが，京都商人は製品に「京」の字をつけるなどしてブランド化を図り，差別化戦略で地方の追い上げをかわした。そのころ生れたサービス産業で今日まで残っているものも少なくない。

サービス業による経済活性化

サービス業による経済の活性化は19世紀のロンドンの推移を見ても分る。19世紀初め，ロンドンの人口は150万人だったが，19世紀末には450万人に膨んでいる。産業革命の影響というのが通説だったが，最近の研究によると，繊維，クツなどの工業はこの間に流出しており，代わって金融，保険，旅行代理業といった第3次産業が増えている。それに外国移民が集っている。不確実な統計だが，19世紀初め数%に過ぎなかった第3次産業従事者が世紀末には40%に達している。ロンドンはサービス化，ソフト化によって産業構造を転換し，世界の金融センターとして英国ばかりか世界経済の活性化をもたらしたといえる。

京都のサービス業は対事業所サービスが弱いことはすでに指摘したが，とりわけ花形産業である情報サービス業が未発達だ。事業所数は全国比1%あるが，売上高は東京の50分の1，大阪の10分の1。しかも業務内容は事務計算が圧倒的で，他都市に多いソフトウェア開発とかシステム管理運営委託の仕事が少ない。契約先が金融，公益事業，公務に集中しており，製造業の少ないのが特徴だ。さらに京都市内の業者からの注文は35%程度で，半分は大阪からの仕事。それだけに今後発展の余地があるといえる。

地元のイベントは地元業者で

近年，京都でもイベントが盛んだ。企画の中心に広告代理業がいるが，京都の需要の40%は大阪の業者にとられている。この業界は全国的に大手3社が市場のほとんどを占有する超寡占型体制が確立しているが，一方では消費者に身近かなミニコミやニューメディアを使った多様な広告，宣伝形態が増加していくのではないか。京都でのこの業界の現状はさびしいが，京都でも年間大変な数のイベントが催されている。地元のイベントは地元の業者が直接受注できる手当てを講じていく必要がある。

わが国がいまかかえている問題の一つに東京一極集中問題がある。東京に人，金，情報が過度に集中しているもので，とりわけ経済のサービス化がこの現象を加速している。全国各地では一極集中是正に取り組んでおり，この対策としてテクノポリスづくり，大都市圏での高次機能集結（リサーチパークづくり）一村一品運動，文化，観光面の開発，がある。いずれもがサービス業を核にして地域経済構造を転換し，活性化に結びつけようというものだ。

世界に開かれた京都へ

京都のサービス産業を考える際，問題になるのは京都の持つ排他性である。東京にも排他性はあるが明治以降の現象で，それも先に住んでいたかどうかの違い程度だ。パリでは3年住めばパリジャンになれるとか。これに対し京都では3代以上京都に住まねば京都人と名乗れないという。だが，これは「3代神話」と思う。私が中京区役所にいた時，23人の自治連合会長のうち3代以上の「京都人」は半分しかいなかった。

同じような神話に「ノーベル賞神話」がある。京大での研究がノーベル賞に結びつくという説だが，湯川秀樹先生の場合，研究成果は京大でなく阪大に出て伸びたと聞いている。

京都で生れ，京都で育ち，京都で働くことが京都のためになるのかどうか，私は疑問に思っている。京都は都であったために昔から人を集め，また人が集まってきた。明治以降も京都に全国から人が集まり，インキュベーターになってきた。京都人も学生を大事にしてきた側面があり，この伝統は引きついで行かねばならないと思う。全国から人材を集め，全国に出して行く。それを助ける産業構成にすることが必要ではなかろうか。

大阪ガスの工場跡地にできた京都リサーチ・パークはグローバルな形で人材を集め，先端産業全体のレベルアップを図ろうという目的で開設された。京都の中小企業を無視しているわけではないが，地元業界のためだけにある施設でもない。これからの京都の施設はグローバルでなければならない。

文化，観光産業への注文

京都においては文化関連産業，あるいは観光関連産業のウエートは高く，波及効果もまた大きい。トータルな活動力は評価されている。それだけに，最大の担い手である観光寺院の姿は現状のままでいいのか，疑問に思う。社寺の経理はいまでも公開されていないが，この状態はいつまで続くのだろうか。家元制度は紛争が起りやすい体質を持っている。京都の代表的文化産業であるならもっと門戸を開くなど，その行動は社会性を持たねばならない。

大学も街にとけ込んでいるとはいい難い。近年，この傾向が強まっている。加藤周一立命館大教授の説によると，米国の大学はキャンパス型という。キャンパスの中に劇場やレジャーランドまで取り込んで，そこだけで一つの街を形成している。だから，キャンパスから一歩外へ出ると広漠たる土地が広がり，町と隔絶されている。これに対し，ヨーロッパでは大学が町の中にとけ込んでいる。町全体が大学町になっている。京都も本来はヨーロッパ型だったが，近年はキャンパス型色彩が強まり，学生もキャンパス型を好む傾向が出ている。大学と町のつながりが薄れ，理工系学部を中心に大学が京都から出て行くとなると，京都の危機である。大学と市民が自然な姿で交流できるような努力が双方に必要である。

行政の文化行政への対応について触れると，京都市は昭和30年ごろにいち早く文化局をつくった。文化行政とは施設をつくることといわんばかりの風潮があるが，最も肝要なのは行政自身が文化性を持つことではあるまいか。

観光における問題点は「待ち」の観光に終わっている点だ。古都税紛争がもつれて拝観停止が行れた際，最もあわてたのは門前町だ。観光寺院に依存し，自己努力を怠っていた結果，集客能力の欠如を露呈し，他の商店街からは批判的に見られていた。

東京ディズニーランドの外国人観光客数が京都への外国人観光客数を上回ったそうだが，外国人の内容が違うようだ。東京ディズニーランドはアジアの拠点としての性格があるので，東南アジアからの客が多い。

京都にも近年，外国人留学生が増えており，歓迎すべきことだが，市民の受け入れ態度が白人優先になり勝ちなのが残念である。アジア系の留学生はアルバイト先や下宿の選択においても差別を受けていると聞く。国際文化観光都市の看板にもとる行為であり，遺憾なことだ。

右脳都市，遊核都市，熟年都市

これからの京都の進むべき方向は「右脳都市」「遊核都市」「熟年都市」だと思う。右脳とは芸術とか文化活動を司る脳細胞で，アナログ型の発想形態だ。京都は何よりもそのトータル性を大切にしなければならない。人工的に作ったショッピングセンターと違って，京都には人を引きつけるあらゆる要素をすでに持っている。これをどういかして，トータル性を発揮させるかが課題である。

ＪＲ京都駅周辺が開発され，新しい集客施設が整備されようとしている。しにせの四条繁栄会などは強い危機感を持っており，私もその対応策の質問を受けるが，四条が京都駅に対抗するには界隈性を発揮することだと思う。人と人とのふれあいや，町のたたずまい，つながりを強調していくことこそ，新しい施設にはない特色を打ち出していける。

サービス産業振興への提言

最後にサービス産業の振興方策について２，３の提案をしみてみたい。第１は総合的な産業政策の確立である。総合的な産業政策を推進する地域活性化研究所といったシンクタンクやイベント企画会社，国際活動を経常的に支援，展開していく京都国際貿易センターの設置を提案したい。

第２は消費者の側に立ち，市民生活にうるおいをもたらす各種サービス部門の振興である。自動車，文化・スポーツ，情報，旅行などの関連事業所をぜひ充実してほしい。第３はまちづくりの問題である。高齢化と女性の社会進出は京都でも著しく，社会の変化につれて都市の施設や構造も変えていかなければならない。各種のコンサル業など，サービス業こそうるおいのある市民生活のために，新しいまちづくりのために重視される機能を持っている。商店街振興策もまちづくりの一環として考えることが必要だ。京都では大学を地域産業の核としてとり込むことも大切だ。いずれにしてもサービス産業を戦略的に活用していくには，行政や経済団体がサービス産業を経常的に実態を把握し，対策を確立していく必要がある。

インタビュー

京都府中小企業団体中央会　会長

古　川　敏　一氏

「中小企業重視の予算編成を」

1919年京都市生まれ，72歳。陸軍経理学校卒業。復員後，古川勘㈱を経営。古川興業㈱，古川化学工業㈱，関東興業㈱の各代表取締役。1982年から京都府中小企業団体中央会会長，翌年から京都商工会議所副会頭。

古川　何よりもまず聞いてほしい。それは中小企業の位置付けについてだ。政府に文句をいうわけではないが，政府予算案の中で中小企業関連予算が少な過ぎる。全国中央会の役員会で聞いた話だが，その比率はわずかに0.3％という。0.3％でっせ。政府は口を開けば経済の活性化の基本は中小企業というが，この予算ではおだてとしか受け取れない。しかもこの少い予算がこの10年間削られてきた。平成4年には久し振りに増えるそうなので，関係者の労は多としたいが，中小企業の重要性を口にするなら，その気持ちを態度で示してほしい。

—先制パンチを一発浴びた感じです。（笑い）地元中小企業の景気はどうですか。

古川　いざなぎ景気を超えたと政府はいうが，中小企業の中には，この戦後最も息の長い好景気の恩恵に浴すことのできない業界が少なくないことは残念でならない。京都では小幅関連業界がよくなく，深刻に受け止めている。

—そうした業界に対する手立てはどうでしょうか。

古川　新年度予算には中小企業の物流や共同化，効率化事業の支援策が盛り込まれている。特にこれまで注意を払われなかった卸売業者の活性化対策が認められた点は評価してよい。

京都の「声」を大きく

—予算獲得に当たっては声の大きい者が得

するのが常です。その点，会長は声が大きい。（笑い）京都の発言力は増していますか。

古川　その通り。（笑い）われながらよくやっていると思う。全国中央会の副会長は6ブロックの代表がなっており，近畿は大阪がクジ取らずで代表だ。京都は残念ながら神戸に次ぐ位置づけだが，役員の配分で近畿をもっと優遇させよと働きかけ，また古川の論客ぶりが認められて（笑い）近畿からの常任理事が神戸，京都の2人になった。その上，総合政策懇談会にも加わることになった。京都のためになれると喜んでいる。

―地元中小企業を活性化する方策は何でしょうか。

古川　ハイテク産業はすばらしいが，伝統産業にも優れた要素がいっぱいある。ハイテクと伝統産業の両立によってこそ京都の中小企業の活性化は図れる。

ソフトを含めた予算の大幅な獲得に中央会は努力している。ただし，中小企業予算は府県が国と同額つける仕組みになっているので，府の協力がなければ推進できない。この点，京都府はよくやってくれている。制度金融の金利を見ても，長年据え置いてくれた。荒巻さん（知事）は立派だ。これほんま。（笑い）

組合活性化に診断協会の協力を

―診断士協会についての意見を聞かせて下さい。

古川　中央会加盟の組合には歴史が長いところも多く，その中には自信過剰に陥り，活動が低迷している事例もある。中央会の指導員が改善策を提示してはいるが，顔見知りということもあって，なかなか聞き入れてもらえない。そこでお願いだが，診断士協会で2年に1回程度，組合診断をやってもらえないだろうか。第3者の冷静な判断を仰ぎ活性化策に活用したいと思う。ぜひ近いうちに具体化したい。協力してほしい。

ひとこと　とにかく，威勢がよい。速歩と遙曲で鍛えた体は病気知らずで，昭和21年2月27日に復員してきて以来，45年間，1日も会社を休んだことがないのが自慢。もちろん，頭の方の回転も順調そのもので会社の振替伝票にはすべて目を通し，自分でハンコを押すことを日課にしている。真冬でもステテコで通し，エレベーターは原則として使わない。視力はいまなお1.2。低迷続く京都経済界にあって万年青年のこの馬力は貴重な存在だ。

（船越）

報告

「診断士の法制化」の要望も出た 近畿ブロック会議

平成3年度の中小企業診断協会近畿ブロック会議が，京都支部担当で9月20日午後京都市上京区の平安会館で開かれた。出席者は本部から日下副会長，田村会員事業部長，松重登録事務課長。ブロックの福井，滋賀，奈良，大阪，兵庫，和歌山各支部から支部長など役員15人。そして京都支部からは黒崎支部長以下17人の，合計35人が集まった。

会議は，本部から本年度の主な協会事業の説明と各支部の事業報告による情報交換が行われた。中小企業診断士を取り巻く情勢や本部・支部事業のあり方が話し合われ，それぞれ認識を深めた。

本部支部間での質疑応答や要望も活発に行われた。その中から，われわれ診断士にとって最も関心のある「中小企業診断士の法制化」について，若干コメントを加えて報告すると次のとおりである。

中小企業診断士（あるいは名称を変えて）の法制化は診断士にとって宿願である。新規資格取得者が増えている今こそ診断士が法的裏付けによる存立根拠を明確にされ，誇りを持ち，幅広く活躍し職業として成り立つことが強く望まれる。他の多くの職業の「士」が法制化されているなかで，診断士のみが取り残されている形になっているのは何らかの理由があるとしても，理解しがたい。単なる自己研さんや知的向上のための資格にとどまらず，職業としての中小企業診断士資格の法制化が必要であるとの要望が支部側から出された。

これに対し，本部の状況判断としては「現状では職業立法は困難だ」との見解が示された。しかし，ある支部からは「法制化実現のためには政治力によってでも推進すべきだ」との強い意見も出た。

（副支部長　奥平恒巳）

報告

ＮＴＴ情報文化センター　見学記

京都支部恒例の秋の研修会として，10月24日，大阪堂島にあるＮＴＴ情報文化センターを見学した。同センターはＮＴＴ関西地区における最大の規模を誇る見学・研修施設である。

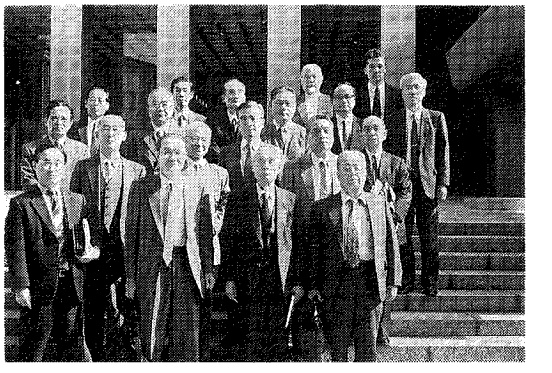
見学の狙いは，とくに中小企業において，情報の収集力や活用力の強化，ネットワーク形成の重要さが叫ばれている今日，インフラ構策のための知識啓発の一環として，企画した。

参加者は京都支部会員および関連団体より若干名の参加を得て，総勢20人で，バスにて現地に向かった。

到着後，ＮＴＴ職員から，会場の展示品の概要説明があった。続いてビデオによって，ドラマ風に描かれた近未来の高度に情報化された家庭生活の一端と，情報化の進展が我々の生活にどんな影響をもたらすかを勉強した。

昼食後，見学に入り，Ｒ＆Ｄギャラリー，ISDNギャラリーで，各種の端末や多機能電話機についての説明を受けた。また，手に取って実際に操作してみるなど，楽しく見学した。

次にＴＶ会議コーナーでは，見学者が会議



メンバーになって実演し，近未来を体験することができた。続いてネットワークやＬＡＮの施設を見学したが，時間の制約上，実演が行なわれなかったのは残念だった。

ホームオートメーション施設では，入出門管理，セキュリティー管理，不在時の荷物受領管理などがカード一枚で運用できるモデルハウスの実演を見ることができた。情報化のアプリケーションとして興味を引くものであった。最後の携帯用電話機の展示コーナーでは，日常大変身近なものなので，手にとって色々使い勝手をためす姿もみられた。これからは，ますます進展する情報化に的確に対応できるよう私たちも絶えざる研さんが必要だと痛感しつつ，ＮＴＴを後にした。

（会員・理事　木津要三）

京都支部だより

平成 3. 6.19　平成3年度京都地区研修会実行委員会を支部事務所において開催し，研修実行の細部を打合せた。

6.27　京都市から平成3年度「生産性と人件費」及び「販売生産性と人件費」の調査の委託を受け，受託契約をした。

7.3～4　平成3年度近畿通商産業局管内診断研究会（工業部門）が兵庫県舞子ビラで開かれ，黒崎支部長，奥平副支部長，高木品川常任理事，植木会員が出席した。

7.16　京都府平成3年度「中小企業活性化指導事業」の実施について打合せた。

8.1～2　平成3年度中小企業診断士研修を日興証券京都支店で開催し，商業部門75人，工鉱業部門34人，情報部門2人が熱心に受講した。

8. 1　「診断京都」第46号（平成3年夏季号）発行し，会員並びに関係先へ配布した。

8. 8　支部理事会を開き，平成3年度近畿ブロック会議の開催企画と役割分担を決めた。

9.20　平成3年度近畿ブロック会議をきようと平安会館で開催。本部3人各支部32人の参加を得て本部及び支部の各事業について情報交換をした。

10. 3　京都府診断指導調整推進会議第2回調整部会（経営部門）が京都府中小企業総合センターで開催され，高木常任理事が出席した。

10.17～18　平成3年度全中小企業診断研究会が山口市湯田温泉で開催され，片岡副支部長が参加した。

10.18　兵庫県支部主催「商業活性化HYOGOフォーラム91」（大店法緩和に伴う商業者の今後の方向をさぐる）が開かれ，木津理事が参加した。

10.24　支部見学研修会を開催。NTT情報文化センター（大阪北区堂島）を訪れ情報化戦略時代の先端的ハードとソフトのシステムを興味深く見学した。参加者は会員18人，企業2人。

11.30　先に京都市から受託した「生産性と人件費」並びに「販売生産性と人件費」に関し，いずれも調査業務を完了し，報告書を提出した。

なお，この間「経営診断研究会」を月例で開催した。いずれも京都勤労会館で。

経営診断研究会

担当	月日	テーマ	参加人員
村上(薫)	7/11	照明器具業界と黒井の経営	22
品　川	8/ 8	リスクマネジメント	21
奥　平	9/12	カードの点と線	17
杉　谷	10/11	高地価時代小売業の価格戦略	17
木　津	11/20	21世紀型企業の創造 オムロン㈱	14

【会員の消息】

＜転入＞

上羽　哲美　大阪から　611 宇治市開町58～6
（自営 0774　43―3022）

岡田　　高　〃　604 中京区三条東洞院通東入
（勤務先　㈱十六五）

三木　正博　神戸から　618 乙訓郡大山崎町字円明寺殿山1～112
（勤務先　㈱村田製作所）

内藤　秀雄　滋賀から　526 滋賀県長浜市神前町10～28
（勤務先　日本たばこ産業㈱伏見営業所）

北井　　靖　東京から　602 上京区寺町通今出川上4丁目西入ライオンズマンション京都烏丸408
（勤務先　オムロン㈱理財部）

＜転出＞

藤堂　昌恒　大阪へ
松江　満之　〃
堤　　忠章　神奈川へ

＜退会＞

加藤　倭男
大木　　徹
鎌田　　猛
土井　眞義
澤西　敏彦

会員の頁

謹 迎 新 年

1992年 新春

中小企業診断士　　（社）中小企業診断協会京都支部有志

植 木 晃 吉 京都市左京区上高野大明神町16 TEL 711-1674 〒606	品 川 弥 太 男 京都市左京区一乗寺松原町101 TEL 721-4078 〒606	堀 村 清 蔵 京都市下京区西洞院通七条上る TEL 361-4455(代) 〒600
奥 平 恒 巳 京都市西京区大枝西新林町6-15-3 TEL 331-1204 〒610-11	高 木 健 次 京都市北区大将軍西町80 TEL 463-8877 〒603	松 田 幸之助 京都市下京区中堂寺前田町29-1 パインコート五条201号 TEL 341-5233 〒600
片 岡 憲 男 京都市中京区丸太町通衣棚西入 玉植町222 TEL 256-1880(代) 〒604	玉 垣 勲 京都市西京区川島尻堀町31-6 TEL 391-5963 〒615	村 上 薫 長岡京市神足神田8-20 TEL 075-955-0609 〒617
木 津 要 三 京都府八幡市西山足立9-5 TEL 983-3271 〒614	常 松 明 大阪府高槻市安満中の町8-7 TEL (0726)82-7779 〒569	村 上 泰 三 京都市下京区大宮松原下る TEL 801-4591 〒600
黒 川 倉 市 京都市北区紫野西野町30 TEL・EAX (075) 493-2496 〒603	中 窪 嘉 邦 京都市右京区御室小松野町31の3 TEL 462-7497 〒616	森 川 八十一 京都市北区紫野中十二坊町28-2 TEL 463-6972 〒603
黒 崎 徳 之 助 京都市上京区浄福寺通下立売下る 中務町490-19 TEL 801-0501(代) 〒602	中 野 善 蔵 京都市上京区西日暮通丸太町下 る四丁目802 TEL 811-2750・8732 〒602	山 口 敏 雄 京都市左京区吉田近衛町26の62 TEL 761-1514 〒606
塩 内 長 俊 滋賀県大津市清和町24-1 TEL(0775)72-4322 〒520-02	浜 本 勝一郎 舞鶴市行永東町10-3 TEL 0773-62-4365 〒625	安 田 徹 京都市上京区中立売油小路西入東 橋詰町72-1 TEL 432-2208 〒602
杉 谷 博 京都市右京区太秦御領田町19-12 TEL 864-2970 〒616	船 越 昇 京都府相楽郡精華町祝園1丁田5- 12 TEL 07749-4-3695 〒619-02	和 田 忠 儀 京都市下京区河原町通六条下ル本 塩竈町590 和田ビル TEL 351-7127 〒600

（アイウエオ順）

企業の頁

選ばれたコーヒー豆
力強い〝看板〟です

OC® OGAWA COFFEE 小川珈琲株式会社
京都市右京区西京極北庄境町20番地
電話（075）313－7333(代)
滋賀営業所　滋賀県野洲郡野洲町三上神守田498
電話（07758）8－1147(代)

味とやすらぎのおもてなし

料理旅館
お料理
中原 呑菜 のんさい

◆旅　館　京都市中京区東洞院三条南 ☎(075)221－1257
◆呑菜京都店　同　上 ☎(075)221－8643
◆呑菜大津店　滋賀県庁前合同ビル ☎(0775)21－0860

和装・洋装のブライダルコスチュームをはじめ 魅惑的なゲスト・フォーマルの衣裳を豊富に取揃えてお待ちいたしております。

Be Bridal TAKAMI
Tokyo・Kyoto・Osaka

京都■京都市下京区五条通河原町西 TEL075(351)7722(代) 〒600
大阪■大阪市北区天神橋3丁目11－16 TEL06(351)7777(代) 〒530
東京■東京都港区南青山3－1－28 TEL03(402)2772(代) 〒107
東京都中央区銀座6-9-5ギンザ・コマツ4F TEL03(564)2277(代) 〒104

車のことならお気軽に!!
●整備 ●販売 ●保険
民間車検工場
中嶋産業株式会社 自動車部
〒603 京都市北区紫竹西北町15の6
（北山通り新大宮西入二筋目北上ル）
電話（075）491－8921(代)
AUTOZAM 紫竹 TEL493－0511

カジュアルあんこショップ TOSHŌDIN
TOSHŌDIN
都松庵
京都市中京区堀川三条下ル TEL(075)811-9288(代)
FAX(075)801-1658

京都に5店しかない
HOYAバリラックス専門店
株式会社 サトウメガネ
京都市北区北大路堀川東入北側
☎(075)493－3017
ヨクミエル　サトウイイナ
●営業時間
午前10:00～午後8:00
●定休日 水曜日

あとがき

あけましておめでとうございます。ブッシュ米大統領の訪日で開けた1992年は，日米関係の再構築が最重要課題に浮上してくる可能性があります。経済環境も変ってくるでしょう。先生方の出番が増えそうです。（船越）

診断京都　No. 47
1992年1月発行
社団法人　中小企業診断協会京都支部
京都市上京区浄福寺通下立売下る
TEL 075-801-0501
FAX 075-841-2560
印刷所　真美印刷
TEL (075)821-2136